

学校施設整備における優先度の考え方及び
優先度の高い学校の選定

平成 27 年 2 月

西宮市教育委員会

はじめに

平成 27 年 2 月現在、西宮市立の学校数は、63 校（小学校 40 校、中学校 20 校、高等学校 2 校、特別支援学校 1 校）あり、そのうち 22 校に、昭和 20 年、30 年代に建築された校舎・屋内運動場が存在しており、築 60 年を経過、もしくは経過しようとしています。老朽化した学校施設への対応は急務の課題であり、教育委員会では、平成 24 年 3 月に「学校施設の修繕及び改築における基本的な考え方について」を策定し、今後の整備方針を示したところです。

また、一方で、児童増加に伴い、教室が不足し、仮設校舎が運動場に設置された状況が継続したり、児童生徒 1 人あたりの運動場が狭くなるなど、施設面における教育環境の改善が必要な学校があります。老朽校舎の解消とともに、適切な教育環境の整備・改善を優先課題として位置づけ、優先度の高い学校から、校舎増改築などの具体的な対応策を検討し、事業化に向けて取り組んでいく方針です。

本資料において、対応すべき優先度の考え方を整理し、学校施設の建築年数や劣化状況とあわせて、各学校の教室不足や運動場不足など教育環境の整備状況等から、総合的に判断し、優先度の高い学校を選定します。

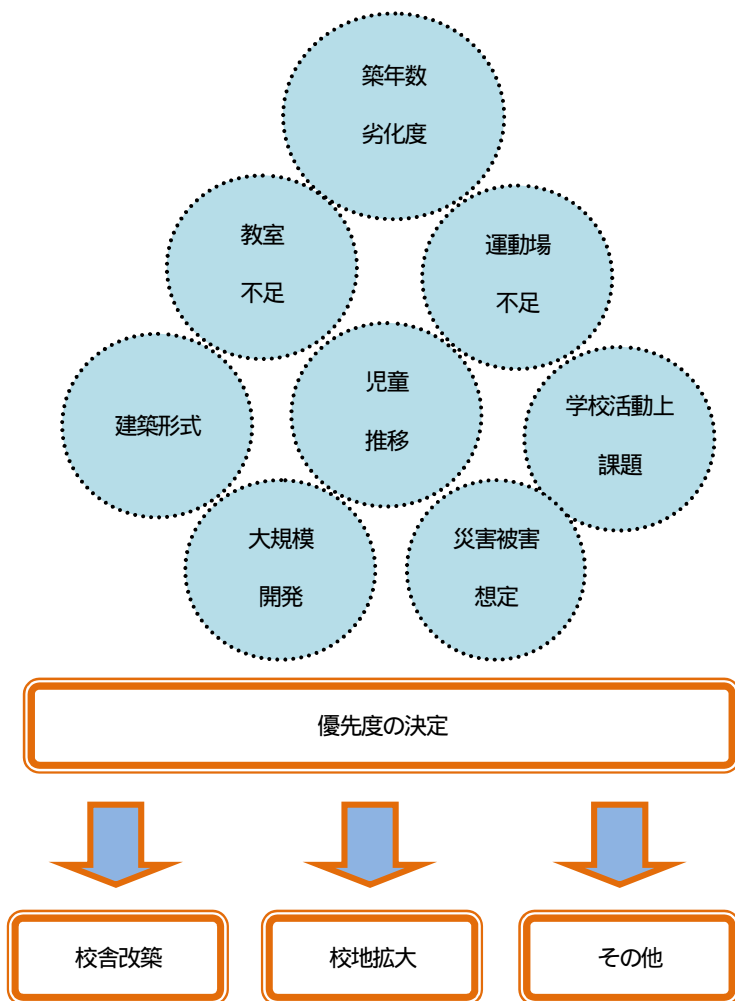
目 次

1	優先順位決定のための検討項目	...	1
1 - 1	建築年数、劣化度の現状	...	2
1 - 2	教室不足の現状と今後	...	4
1 - 3	運動場不足の現状と今後	...	6
1 - 4	その他の検討項目	...	8
	建築形式の課題	...	8
	校地面積の現状	...	9
	大規模開発の可能性と影響	...	10
	教育環境保全のための住宅開発抑制に関する指導要綱との関連	...	11
	西宮養護学校の現状と課題	...	12
2	優先度が高い学校の選定	...	13
3	対応策と実施時期	...	15
3 - 1	校舎増改築による対応	...	16
3 - 2	校舎増築による対応	...	18
3 - 3	校地拡大などによる対応	...	18

1 優先順位決定のための検討項目

今後、優先して対応すべき学校の選定については、建築年数や劣化度に加えて、教室不足や運動場不足、今後の児童推移などの項目について、各校の現状を把握し、相対的評価を行い、総合的に判断し、優先順位を決定します。優先順位の高い学校については、具体的な対応方針を検討・策定し、事業化に向けて取り組んでいきます。

- 【検討項目】**
- 建築年数、劣化状況
 - 教室不足
 - 運動場不足
 - 今後の児童推移
 - 学校活動上の課題
 - 建築形式（開放廊下型）
 - 大規模開発
 - 災害被害想定区域
 - ...



1-1 建築年数、劣化度の現状

昭和 20、30 年代に建築された校舎、屋内運動場は、築 50 年～60 年を経過しており、老朽化が著しく、順次、対応が必要な状況です。老朽化に関する優先度を定めるうえでは、「学校施設の修繕及び改築における基本的な考え方について」のとおり、建築年数が、最も重要な要素と考えます。また、建築年数とあわせて、建物の劣化度についても検討し、優先度を決めました。

外壁、トイレ、床等の劣化状況については、現地調査を実施し、状況を確認しました。築年数の経過による劣化は認められますが、改修工事が行われていることもあり、優先すべき状況はありません。また、躯体の劣化状況については、その状況をふまえて耐震補強工事を行っています。以上のことから、建物の劣化度に関しては、特に優先して対応すべき校舎等はありません。

以上の検討の結果、昭和 20 年代に建築された校舎等を有する学校を、「優先度が高い」とし、昭和 30 年代に建築された校舎等を有する学校を、「優先度がある」としました。

昭和20、30年代に建築された校舎等を有する小学校

小学校名	建築年次				優先度
	S25～29	S30～34	S35～39	S40～44	
春風小		2			
香櫨園小		1	1	1	
広田小		1			
鳴尾北小		1		1	
神原小(屋)		1		1	
安井小			1	1	
甲東小			1		
小松小			3		
今津小			1	1	

昭和20、30年代に建築された校舎等を有する中学校

中学校名	建築年次				優先度
	S25～29	S30～34	S35～39	S40～44	
大社中	2	3	1		
上甲子園中		2	1		
学文中		1	1	1	
鳴尾中		3			
浜脇中		2	2		
瓦木中		2	2		
甲陵中(屋)		1		1	
今津中		1	1		
山口中		1			
浜甲子園中			1		

昭和20、30年代に建築された校舎等を有する高等学校・特別支援校

学校名	建築年次				優先度
	S25～29	S30～34	S35～39	S40～44	
西宮東高			2	3	
西宮養護			2		

建築年次欄は、該当する棟数を記載

優先度欄は、優先度が高い場合は、「 」、優先度がある場合は、「 」と記載

南甲子園小は、平成27年度末に改築完了予定で、上記表に掲載していない

1-2 教室不足の現状と今後

(小学校)

教育環境整備の観点から、現時点で教室不足にあり、今後も改善の見込がない学校や、今後の児童の増加に伴い、教育環境がさらに悪化する学校について、優先的に教育環境の改善が必要であると考えます。下記は、教室が不足している（又は見込まれる）学校を、平成 32 年度までに増加する児童数の降順に列挙したものです。その中で、今後の児童増加が顕著である、または仮設校舎等の増設が必要な学校については「優先度が高い」とし、今後の児童推移が、微増または横ばい傾向の学校を「優先度がある」としました。また、受入困難地区に指定している大社小は、仮設校舎を設置していないものの、明らかに教室不足の状況であり、「優先度が高い」としました。

教室が不足している小学校

小学校	児童推計		学級数 H32	教室不足		指導要綱 地区指定	優先度
	H26～32 増減	ピーク年度 見込		仮設校舎 設置数	今後教室 不足見込		
深津小	336	H33以降	21	-	5	予測	
安井小	197	H33以降	27	4	2	監視	
香櫨園小	127	H31～32	31	9		監視	
春風小	102	H33以降	32	8		監視	
広田小	47	H33以降	29	6		予測	
段上西小	33	H32以降	25	4		予測	
樋ノ口小	16	H29	27	2		予測	
瓦林小	7	H28	29	7	2	監視	
甲陽園小	74	H27	26	2		予測	
鳴尾北小	111	H26	30	4		予測	
甲東小	149	H26	25	4		予測	
甲子園浜小	240	H26	19	2			
上ヶ原小	250	H26	21	6		予測	
大社小	125	H26～27	18			受入困難	

:優先度が高い
:優先度がある

(中学校)

小学校と同様に、教育環境整備の観点から、現時点で教室不足にあり、今後も改善の見込がない学校や、今後の生徒の増加に伴い、教育環境がさらに悪化する学校について、優先的に教育環境の改善が必要であると考えます。下記は、教室が不足している（又は見込まれる）学校を、平成 32 年度までに増加する生徒数の降順に列挙したものです。その中で、今後の生徒増加が顕著である、または仮設校舎等の増設が必要な学校については「優先度が高い」とし、今後の生徒推移が、微増または横ばい傾向の学校を「優先度がある」としました。それ以外の学校については、生徒の減少傾向が明らかであり、優先すべき学校はありません。

教室が不足している中学校

中学校	生徒推計			教室不足		優先度
	H26～32 増減	ピーク年度 見込	H32～38 増減	仮設校舎 設置数	今後教室 不足見込	
瓦木中	80	H33	101	4	2	
真砂中	24	H27	67	4		
浜脇中	32	H28	14	4		
塩瀬中	111	H27	229	4		
学文中	157	H26	160	4		
甲陵中	193	H26	161	4		

：優先度が高い
：優先度がある

1-3 運動場不足の現状と今後

(小学校)

平成 32 年度、運動場が不足している（児童 1 人あたりの運動場面積が、文科省設置基準から目安とされる「児童 1 人あたりの運動場面積 10 m²」を下回る）学校 18 校を数値の低い順から列挙しました。

平成 32 年度の児童 1 人あたりの運動場面積が、18 校の平均値約 7.5 m²を下回っている学校を「優先度がある」とし、そのうち、児童が増加傾向にある学校を「優先度が高い」としました。7.5 m²を上回っている学校のうち、今後の児童増加が顕著な深津小は、「優先度がある」とし、また、受入困難地区に指定している大社小は、「優先度が高い」としました。

運動場が不足している小学校

小学校	児童1人あたりの運動場 (m ²)		H26 32 児童増減 (人)	指導要綱 地区指定	優先度
	H32	H26			
夙川小	5.84	7.26	193		
大社小	6.26	5.18	125	受入困難	
安井小	6.41	8.25	197	監視	
香櫨園小	6.45	7.35	127	監視	
瓦林小	6.59	6.64	7	監視	
名塩小	6.93	5.47	148		
甲東小	7.17	6.06	149	予測	
南甲子園小	7.27	6.48	51	予測	
春風小	7.33	8.11	102	監視	
段上西小	7.71	8.03	33	予測	
広田小	7.81	8.22	47	予測	
深津小	7.90	15.83	336	予測	
樋ノ口小	7.97	8.12	16	予測	
津門小	8.34	9.37	81	予測	
北夙川	8.36	6.83	157		
神原小	8.74	8.91	9		
高木小	8.79	4.39	463	準受入困難	
用海小	9.61	8.93	9	監視	

:優先度が高い
:優先度がある

文科省令小学校設置基準では、児童数が 721 人以上の場合、運動場面積 7,200 m²を確保することが基準となっていて、上記のうち、7,200 m²以上の運動場を確保しているのは、春風小と広田小

(中学校)

平成 26～38 年度で、運動場が不足する（生徒 1 人あたりの運動場面積が、文科省設置基準から目安とされる「生徒 1 人あたりの運動場面積 11.60 m²」を下回る）学校は「瓦木中」のみです。下記は、ピーク時生徒数 1 人あたりの運動場面積ワースト 5 です。小学校の運動場不足の状況や文科省の基準値を考えると、瓦木中の運動場不足の状況は、「優先度がある」とします。

中学校	生徒1人あたりの運動場面積 (m ²)			生徒数			優先度
	H26	ピーク時	H38	H26	ピーク時	H38	
瓦木中	12.22	11.03 (H33)	12.50	952	1,055	931	
浜脇中	12.57	11.79 (H28)	12.85	816	870	798	
塩瀬中	12.53	12.21 (H27)	21.26	828	850	488	
甲陵中	12.48	12.48 (H26)	19.81	957	957	603	
学文中	14.28	14.28 (H26)	22.52	867	867	550	

:優先度がある

文科省令中学校設置基準では、生徒数が 721 人以上の場合、運動場面積 8,400 m²を確保することが基準となっているが、本市中学校の運動場面積はすべて 8,400 m²以上を確保している。

1-4 その他の検討項目

建築形式の課題

主に昭和30年代の建築で、建築費を抑える目的で造られた開放廊下型の校舎があります。開放廊下型の校舎は、雨や風などの影響を受けるため、程度によりますが、学校生活に支障をきたしている例があります。教育環境整備の観点から、解消すべき課題であり、開放廊下率が50%を上回っている場合は、「優先度がある」とし、特に、開放廊下率の高い「小松小」と「瓦木中」については、「優先度が高い」としました。下記は、昭和20～30年代に建築された校舎等を有する学校について、開放廊下率の高い順番に列挙しました。

小学校の開放廊下率

小学校	開放廊下率 (%)	優先度
小松小	100	
春風小	71	
香櫨園小	69	
広田小	58	
神原小	48	
甲東小	43	
鳴尾北小	20	
安井小	0	
今津小	0	

中学校の開放廊下率

中学校	開放廊下率 (%)	優先度
瓦木中	89	
学文中	54	
大社中	30	
今津中	29	
山口中	27	
鳴尾中	21	
上甲子園中	16	
浜脇中	15	
浜甲子園中	0	
甲陵中	0	

:優先度が高い
:優先度がある

開放廊下率とは、「開放廊下の長さ / 学校全体の廊下の長さ」で算出される数値です。

校地面積の現状

下記は、校地面積及び児童1人あたりの校地面積（平成32年度見込）の小さい順から列挙したものです。教室不足や運動場不足の解消を検討する際に、校地の拡大が適当であるかどうかの参考となります。現状、教室不足及び運動場不足解消の優先度が高い学校のうち、「瓦林小」「大社小」「安井小」は校地面積が小さく、児童1人あたりの校地面積も相対的に小さいことが分かります。

校地面積が小さい学校

	小学校名	校地面積 (m ²)
1	瓦林小	9,923
2	大社小	10,229
3	深津小	10,775
4	名塩小	11,831
5	安井小	12,232
6	上ヶ原南小	13,074
7	鳴尾小	13,298
8	今津小	13,392
9	南甲子園小	13,490
10	高木小	13,587

児童1人あたりの校地面積が小さい学校

	小学校名	校地面積 (m ² /人)
1	瓦林小	10.9
2	安井小	13.8
3	南甲子園小	15.2
4	春風小	15.5
5	深津小	16.1
6	香櫨園小	16.1
7	樋之口小	17.0
8	大社小	17.1
9	甲東小	17.8
10	夙川小	18.4

大規模開発の可能性と影響

短期間でのマンション等の大規模開発は、児童急増を招き、急激に教室不足や運動場不足が深刻化します。深津小校区で、平成22年～25年に約800戸の大規模開発があり、今後5年間で300人の児童増が見込まれ、校舎の増築を計画しています。深津小の児童数は335人、校舎増築での対応が可能ですが、児童数700人規模の学校区で大規模な開発があった場合、校舎増築での対応が困難になることも予想されます。

よって、大規模開発の動向には十分に留意する必要があります。下記は、平成32年度児童数が700人を越える見込の学校一覧です。下記のうち、夙川小学校区内で、大規模な住宅開発が可能で、今後、その動向に留意すべき土地を把握しています。

児童数700人(H32年度時点)を超える見込の小学校

小学校名	児童数		
	H32	H26	増減
春風小	1,061	959	102
香櫨園小	1,047	920	127
浜脇小	1,034	1,099	65
鳴尾北小	1,018	1,129	111
夙川小	986	793	193
広田小	956	909	47
瓦林小	907	900	7
樋ノ口小	895	879	16
南甲子園小	890	941	51
安井小	886	689	197
段上西小	833	800	33
甲東小	816	965	149
甲陽園小	813	887	74
用海小	734	790	56
津門小	731	650	81
上ヶ原小	710	960	250
北夙川小	702	859	157

教育環境保全のための住宅開発抑制に関する指導要綱との関連

標記指導要綱では、教室不足や運動場不足の学区内の住宅開発について、一定の開発戸数制限をお願いしています。教室不足や運動場不足の状況に応じて、段階的に地区指定を行っていますが、開発戸数に上限を設定し、また指定期間が長期化している受入困難地区（大社小学校区）準受入困難地区（高木小学校区）の地区指定については、早期の地区指定解除又は緩和（以下、解除等）に努めなければなりません。

大社小学校

教室不足及び運動場不足の状況は、依然、深刻な状況で、地区指定の解除等の時期を明確にすることはできませんが、児童数は平成 26 年度をピークに、以降減少傾向です（H26:724 人 H32:599 人/125 人児童数減の見込）校地面積も小さく、また、建ぺい率の関係で、現敷地での校舎増築は困難です。

高木小学校

高木小学校の過大規模解消のため、同一校区内に小学校を新設し、平成 28 年度開校を計画しています。平成 28 年度以降、高木小学校の教室不足及び運動場不足は解消されます。

瓦木中学校

現在、仮設校舎を 4 教室設置しており、生徒数は今後も増加傾向で、平成 33 年度のピークを見込んでおり、今後、仮設校舎の 2 教室増設を予定しています。地区指定の解除等に伴い、大規模な住宅開発があった場合、更なる教室不足や運動場不足が予想されます。昭和 30 年代築の校舎も老朽化しており、地区指定の解除等に向けて、校舎の増改築等を優先的に計画する必要があります。

西宮養護学校の現状と課題

西宮養護学校については、校舎老朽化、教室不足や運動場不足の観点だけではなく、適切で安全な学校活動の確保からも、施設面における教育環境の改善を必要としています。

約4割の児童生徒が、医療的なケアを必要とし、障害の程度が重度化・重複化しています。ほとんどの児童生徒は、移動時に何らかの支援が必要な状態で、中には、ストレッチャー型の車椅子を常時使用する生徒もいます。また、体温調節が困難な児童生徒にとっても、現在の施設では、十分に対応ができていない状況で、学校運営上支障が生じています。

また、教室不足に伴い、特別教室を普通教室に転用し、運動スペースに仮設校舎を設置して対応していますが、今後も児童生徒は増加傾向にあり、教室不足も深刻な状況です。さらには、昭和35年建築の校舎をはじめ、全体的に校舎老朽化が著しい状況です。

以上のことから、西宮養護学校を優先的に整備すべき学校として位置づけます。

平成26年度には、校舎改築事業に関する基本方針について保護者や学校関係者と協議を行い、平成27年度には、基本計画の策定を行い、早期の改築校舎竣工を目指します。

2 優先度が高い学校の選定

建築年数・劣化度の項目で優先度がある学校

教室不足及び運動場不足に優先度があり、かつ、相対的に優先度が高い学校を

「優先度が高い学校」として選定

「春風小」「香櫨園小」「安井小」「瓦木中」「西宮養護」の5校を選定

対応策として、校舎改築が想定される

校種	学校名	建築年数 劣化度	教育環境整備				優先度
			教室不足	運動場不足	建築形式	その他	
小	春風小						
	香櫨園小						
	広田小						
	鳴尾北小						
	神原小(屋)						
	安井小						
	甲東小						
	小松小						
	今津小						
中	大社中						
	上甲子園中						
	学文中						
	鳴尾中						
	浜脇中						
	瓦木中						
	甲陵中(屋)						
	今津中						
	山口中						
浜甲子園中							
高	西宮東高						
特	西宮養護						

:優先度が高い

なお、「優先度が高い学校」に次いで、優先すべき学校として、「広田小」「小松小」「大社中」などを候補として考えています。

建築年数・劣化度の項目で優先度はない学校

教室不足及び運動場不足に優先度があり、かつ、相対的に優先度が高い学校を

「優先度が高い学校」として選定

「大社小」「瓦林小」「深津小」の3校を選定

対応策として、校舎増築や校地拡大等が想定される

校 種	学校名	建築年数 劣化度	教育環境整備				優先度
			教室不足	運動場不足	建築形式	その他	
小	深津小						
	段上西小						
	樋ノ口小						
	瓦林小						
	大社小						
	夙川小						
	名塩小						
	甲東小						

以上のとおり、「優先度の高い学校」を選定しましたが、教室不足や運動場不足は、今後、状況が変わることも考えられるため、見直す必要が生じた場合は、その都度、見直します。

3 対応策と実施時期

検討の結果、優先度が高い学校8校の対応策及び実施時期については、以下のとおり計画します。

校舎増改築による対応

8校のうち、校舎増改築による対応が適当な学校は「香櫨園小」「安井小」「春風小」「瓦木中」「西宮養護」の5校です。平成32年度時点の学級数、運動場面積、仮設校舎設置状況などから優先度を比較して実施時期を決定します。

まず、小学校3校の香櫨園小、春風小、安井小の優先度比較については、平成32年度時点で

香櫨園小と春風小は31学級(過大規模)に達していること

香櫨園小と春風小の比較で、仮設校舎設置状況や運動場面積の点で、香櫨園小の方が状況が悪いこと

以上のことより、実施時期の優先順位は、香櫨園小、春風小、安井小の順とします。

次に、瓦木中は、3校の小学校と比較して、運動場不足に関する優先度が低いと考え、実施時期は、3校の小学校の後とします。また、西宮養護は、他の4校とは改善すべき課題やその原因が違うため、実施時期については、別で考えます。

	平成32年度見込			児童生徒ピーク時	
	学級数	運動場面積	仮設校舎	年度	学級数
香櫨園小	31	4位	9教室	H31~32	31
春風小	32	9位	8教室	H33~	32
安井小	27	3位	6教室	H33~	27以上
瓦木中	27	1位	4教室	H33	27
西宮養護	-	-	4教室	-	-

「運動場面積」欄は、児童生徒1人当たりの運動場面積で、全校中のワースト順位を記載

校舎増築による対応

8校のうち、校舎増築による対応が適当な学校は「深津小」1校です。

校地拡大などによる対応

8校のうち、校地拡大等による対応が適当な学校は「大社小」「瓦林小」の2校です。ただし、校地拡大で対応できない場合は、その他の対応を検討します。

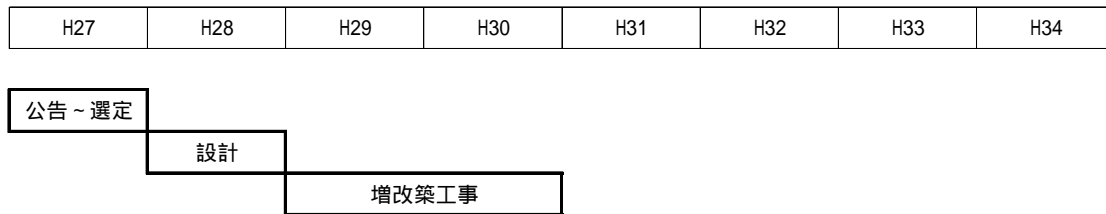
3-1 校舎増改築による対応校について

対象5校の実施時期について、下記のとおりです。なお、実施時期は、現時点で想定される本事業にかかる予算規模や人員配置をふまえたうえで計画したものです。また、事業スケジュール(案)は、学校関係者や地域との協議や改築場所、事業手法、設計内容等により変更されます。参考に、現段階で算出可能な事業費の概算額を掲載しています。

香櫨園小学校

児童数ピークを平成31～32年度と見込んでおり、早期の事業着手により、平成30年度～31年度中の改築校舎竣工を計画します。平成27年度当初予算に事業予算計上予定です(概算事業費 42.3億円)

事業スケジュール(案)



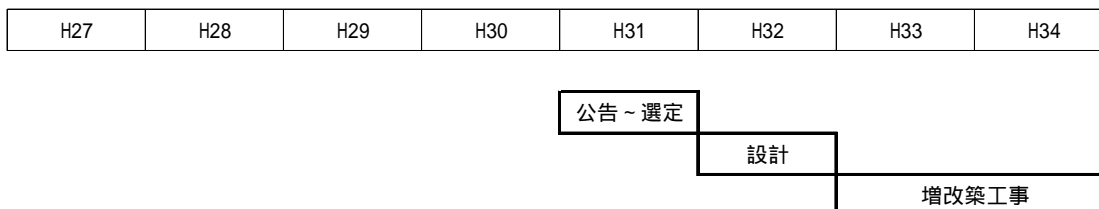
春風小学校

児童数ピークを平成33年度以降と見込んでおり、今後の児童数推移をふまえ、時期や規模を決定する必要がありますが、現時点では、平成32年度校舎竣工を計画します(概算事業費 42.7億円)



安井小学校

児童数ピークを平成 33 年度以降と見込んでおり、今後の児童数推移をふまえて時期や規模を決定する必要があります。また、本校は、安井地区計画の制限のため（改築後校舎の高さが 12m までと制限される）、現状では、4 階建て校舎の設置が不可能であるため、適切な対応策の検討が必要です（概算事業費 46.3 億円）



西宮養護学校

前述のとおりですが、平成 27 年度は、事業の基本計画（改築場所、施設規模、施設内容等）について学校関係者や保護者と引き続き協議を行い、平成 27 年度中の計画策定を予定しています。（現段階で、概算事業費の算出は不可）

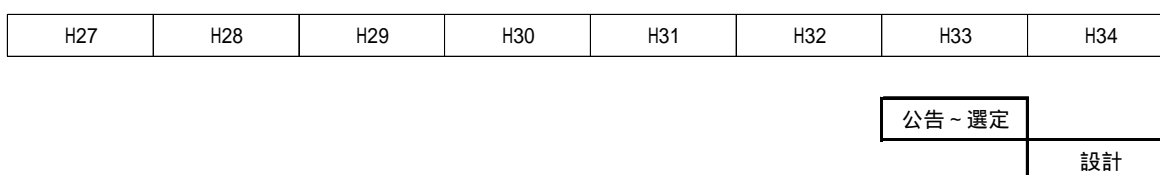
H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

基本計画策定

瓦木中学校

生徒数ピークは平成 33 年度を見込んでおり、ピーク時には仮設校舎 6 教室で対応しますが、33 年度以降生徒数は減少傾向となります（H33 年度 1,055 人 H38 年度 931 人/ 124 人）

高木小学校区に新設校が平成 28 年度開校することで、高木小学校区に指定している準受入困難地区を解除又は緩和すると、大規模な住宅開発が予想されます。小学校の受入は対応可能ですが、瓦木中学校については、教室不足や運動場不足の更なる深刻化が予想されます。優先順位上、事業着手は平成 33 年度の予定ですが、その間に、地区指定の解除又は緩和を実施するために、対応策を検討します（概算事業費 66.9 億円/隣地購入費込）



3-2 校舎増築による対応校について

深津小学校

平成 22 年～25 年にかけて、校区内で約 800 戸の大規模開発があり、今後、児童数は急増し、平成 32 年度以降の児童数ピークを見込んでいますが、既存校舎で対応が困難となる平成 31 年度までには、校舎増築を完了します。

H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----



3-3 校地拡大などによる対応校について

大社小学校

平成 26～27 年度に児童数のピークを迎え、以後、減少傾向が見込まれています（H26：724 人 H32：599 人/125 人の児童数減）しかしながら、平成 32 年度時点においても、教室不足や運動場不足は、依然深刻な状況です。校地面積が小さく、教育環境改善のためには、校地拡大での対応を検討するべきですが、現在のところ学校周辺には候補となる空地がありません。今後は、校地拡大候補地の所有者と接触し、校地拡大を検討していきます。

瓦林小学校

平成 28 年度に児童数のピークを迎え、以後、横ばい傾向になります。平成 32 年度以降も、深刻な教室不足や運動場不足の状況は継続される見込です。校地面積が小さく、教育環境改善のためには、校地拡大で対応するか、もしくは、高木北小学校新設に伴い、校区変更による対応を検討することが必要です。学校や地域の意見に十分配慮し、今後の対応を慎重に検討していきます。